

令和6年度 並木地域ケアプラザPDCAシート_公表用（事業計画書、事業報告書、事業実績評価）

—総括表—

◆ 事業計画

☐ 地域の現状と今後の方向性		
【シーサイドタウン地区】昭和50年代から作られた大規模な団地地区。高齢化率は地区全体では40%程であるが一丁目では約45%と非常に高い。エレベーターが無かったり、隔階止まりだったりする住宅が多く、歩行が困難になると閉じこもりとなるリスクが高くなる。 【富岡第一地区】丘陵地の戸建住宅からなる地区。高齢化率は25%程であり、戸建て分譲住宅に子ども連れ世帯が転居している。商店が少なく、バス路線から買い物は杉田方面に行く方が多い。丘陵地であるため、歩行が困難になると閉じこもりのリスクが高くなる。 【今後の方向性】できるだけ住み慣れた地域で自立して生活していけるように、必要な生活支援の課題を地域住民と共に整理する。担い手不足が両地区とも課題であり、ケアプラザの事業やつながりを活かし、担い手を発掘していく。		
☐ 今年度の重点的な取組		
新規	継続	—具体的な取組内容—
■	☐	夕方時間に並木CPで「子どもの居場所」を立上げるため、各関係者・関係機関にニーズのヒアリングを実施する。ヒアリングの結果を基に、地域のボランティアの協力も得ながら地域の居場所をつくる。
■	☐	自主事業のサロン（チャットCafé、悠遊なごみサロン）等、どんな方でも受け入れていけるよう、認知症サポーター養成講座等、必要に応じて地域包括支援センターとも連携しながら支援する。
■	☐	5職種会議を定例カンファレンスとは別日程で調整し、地域支援や各事業を共有・相談・議論できる場を作る。5職種会議には区社協担当職員の出席も依頼し、連携を深める。
☐	■	認知症への理解・普及啓発を地域で推進する
■	☐	担当地区における地区社協及び民児協定例会への定期的に参加し、顔の見える関係づくりを行う。

◆ 事業報告・事業実績評価

☐ 振り返り
上半期に、学校関係者や児童と関わりのある地域住民等に丁寧にヒアリングを行い、放課後の居場所のニーズがあることが明確になり、11月から放課後フリースペース「MEDAKA」がスタートした。地域のボランティア3名の協力も得ることができているが、曜日や時間帯の設定には課題が残っている。次年度以降はボランティアと共に、内容を検討しながら実施していきたい。 誰でも気軽に参加できることが強みである自主事業については、認知症当事者等の参加もあり、多様性を自然に受け入れながら、地域住民の居場所となっている。自主事業に参加するだけでなく、定期的なデイサービスでのコーヒータウンにも繋がっている。 5職種会議を毎月単独で開催し、区社協地区担当職員にも出席していただき、地域支援の方針を検討したり、地域のアセスメントを5職種で確認できる場となっている為、次年度も継続して実施していく。 今年度から新たに富岡第一地区の地区社協(連合)定例会及び民児協定例会にも出席させていただけるようになり、顔の見える関係づくり、何かあった時に相談しやすい関係づくりが進んでいる。
☐ 区からのコメント
地域のニーズを分析し、具体的な施策として放課後フリースペースを新たな取組として行っていただきました、より利用者が増えるような工夫を引き続き行っていただければと思います。また各種自主事業にも力を入れていただきました。民生委員との日頃からの連携や情報共有、事例検討などにも取り組んでいただきました。各地区の状況について、関係機関や他の地域ケアプラザと密に情報共有を行っていただきました。エリア内の社会資源が少ないという課題を連携・ネットワークでカバーしていく大変さが特徴だと思います。今後も引き続き、区とともに、関係機関との連携・ネットワーク構築を進め、地域課題の解決に取り組んでいただけますよう、よろしくお願いします。